

1歳になるお子さまの保護者の方へ

MR（麻しん・風しん混合）1期予防接種のお知らせ

対象年齢	1歳から2歳のお誕生日前日まで
接種回数	1回（全2回のうち1回目）
接種費用	全額公費負担（無料）
接種場所	別紙の 市内指定医療機関 または 本島内の地区医師会会員医療機関

※麻しん・風しん両方にかかったことのあるお子さまは接種を受ける必要はありません。

どちらか一方にかかったことがあるお子さまは、MRワクチンを定期接種として接種可能です。

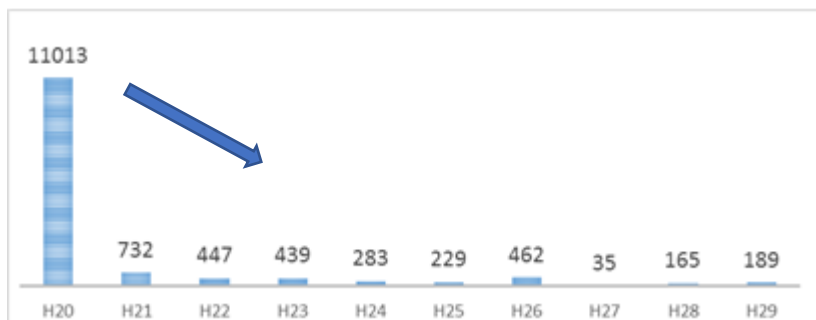
■MR（麻しん・風しん）2期予防接種スケジュール

流行防止のためには、
対象者のMRワクチンの接種率が
95%以上必要といわれています。
特に大事な予防接種です☑



■麻しんの国内患者報告数（国立感染症研究所速報データより引用）

- ・平成18年6月からMRワクチンの2回接種を開始
- ・平成20年度からMR3期／4期を開始（平成24年度まで）



予防接種の取組
強化した時期に
患者数が激減！



【 お問い合わせ先 】 保健相談センター 健康づくり課（予防係） ☎ 098-875-2100

麻しん（はしか）とは

麻しんウイルスの感染経路は、空気感染、飛沫感染、接触感染で人から人へ感染し、その感染力は非常に強いといわれています。麻しん発症患者から周囲への感染可能期間は、発症日の1日前から解熱後3日間を経過するまでの期間で発症前から感染力があります。免疫を持っていない人が感染するとほぼ100%発症し、一度感染して発症すると一生免疫が持続するといわれています。

主な症状は、感染すると約10日後に発熱や咳、鼻水、目の充血といった風邪のような症状が現れます。2～3日熱が続いた後、**39℃以上の高熱と発疹**が出現します。

肺炎、中耳炎を合併しやすく、患者1,000人に1人程度と頻度は高くないものの、麻しんウイルスに感染後、数年から十数年後に亜急性硬化性全脳炎（SSPE）と呼ばれる知能障害や運動障害などが進行した後、数年以内に死に至る中枢神経疾患を発症することもあります。

風しんとは

風しんウイルスによる感染症で、妊娠早期（20週頃以前）の女性が感染することで、胎児に重篤な影響を与える先天性風しん症候群の原因となり、妊婦は特に注意が必要です。

主な症状は、発熱・発疹（全身の小さな赤い発疹）・リンパ節の腫れ（主に首、後頭部、耳の後ろ）が三種徴で、感染後2～3週間の潜伏期間を経て発症します。

発熱・発疹は数日で消失しますが、リンパ節の腫れは3～6週間続きます。成人では関節炎症状も認められることもありますが、基本的には自然に回復します。また、脳炎や血小板減少性紫斑病等の合併症を認めることもあり、入院加療を要することもあります。

一方で、感染しても発症しない場合もあります。小児では30～50%、大人では15%程度と言われており、発症しても三主徴の全てが揃わない場合も多くあります。

MRワクチンの安全性

ワクチン接種後の反応として多く見られる症状として、発熱、発疹、鼻汁、咳、注射部位紅斑、腫脹などが見られます。重大な副反応として、アナフィラキシー、急性散在性脳脊髄炎（ADEM）、脳炎・脳症、けいれん、血小板減少性紫斑病がごく稀に（0.1%未満）報告されていますが、ワクチンとの因果関係が明らかでない場合も含まれています。

なお、麻しん含有ワクチンは、ニワトリの胚細胞を用いて製造されており、卵そのものを使っていないため卵アレルギーによるアレルギー反応の心配はほとんどないとされています。

しかし、重度のアレルギー（アナフィラキシー反応の既往のある人など）のある方は、ワクチンに含まれるその他の成分によるアレルギー反応が生ずる可能性もあるので、接種時にかかりつけ医にご相談ください。

出席停止期間（学校保健安全法）

【麻しん】解熱後3日後を経過するまで 【風しん】発疹が消失するまで